第十一講　入試問題を解く手順／実践演習⑴『新花摘』

★手順

① **設問**確認↓解ける問題（**文脈不要の単語・文法・知識問題**）は先に解く。
内容合致問題があれば、選択肢を先にざっと読んで大まかな内容を予測する。
（詳細は今後の講義中で解説）

② **注釈**確認↓注釈があれば、本文中に**注マーク**がついているかどうかを確認。

③ **リード文**（前書き）確認↓きちんと情報をつかんでおく。

④ **出典**（作品名）確認↓特に**「日記・随筆」**のジャンルの場合に気をつける！
「　　＝　　」が登場人物の一人である！

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

次の文章を読み、後の問に答えなさい。

むかし丹後宮津（みやづ）の見性寺（けんしやうじ）といへるに、三年（みとせ）あまり宿りゐにけり。秋のはじめより、（注1）あつぶるひのために苦しむこと五十日ばかり、奥の一間（ひとま）はいといと広き座敷にて、つねに障子（さうじ）［Ⅰ］戸ざして、風の通ふ[x]ひまだにあらず。その次の一間に病床をかまへ、隔てのふすまをたてきりてありけり。ある夜（注2）四更（しかう）ばかりなるに、病（やまひ）やや[y]ひまあり[a]ければ、（注3）厠（かはや）にゆかんと思ひてふらめき起きたり。厠は奥の間の榑縁（くれえん）をめぐりて、⑴いぬゐの隅にあり。ともしびも消えていたう暗きに、隔てのふすま押し開けて、まづ右（みぎ）りの足を一歩さし入れ[b]ければ、［Ⅱ］むくむくと毛のおひたるものを踏み当てたり。おどろおどろし[c]ければ、やがて足をひきそばめてうかがひゐたりけるに、ものの音もせず。あやしくおどろしけれど、胸打ち心定めて、此（こ）たびは左（ひだ）りの足をもて、ここなんと思ひてはたと蹴たり。されど露さはるものなし。［Ⅲ］心得ず、身のけだち[d]ければ、わななくわななく（注4）庫裡（くり）なるかたへ立ちこえ、法師・しもべなどの⑵いたく寝ごちたるをうちおどろかして、かくかくと語れば、みな起き出づ。ともしびあまた照らして奥の間にゆきて見るに、ふすま障子は常のごとく戸ざしありて、のがるべき[z]ひまなく、⑶もとよりあやしきものの影だに見えず。みな云ふ、「わどの、病におかされて、⑷まさなくそぞろ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ごといふなめり」と、怒り腹立ちつつ、みな臥したり。

中々にあらぬこといひ出でけるよと、(5)おもなくて我も臥戸（ふしど）に入りぬ。やがて眠らんとする頃、胸の上盤石（ばんじやく）を乗せたらんやうにおぼえて、ただうめきにうめきける。その声のもれ聞えけるにや、住侶竹渓師（じゆうりよちくけいし）入りおはして、「(6)あなあさまし、こは何ぞ」と助け起こしたり。やや人心地つきて、かくと語りeければ、「さることこそあなれ。かの狸沙弥（たぬきしやみ）が所為（しよゐ）なり」とて、妻戸おしひらき見るに、夜しらじらと明けて、あからさまに見認（みとめ）けるに、縁より簀（す）の子（こ）の下に続きて、(7)梅の花のうち散りたるやうに跡付きたり。さてぞ先にそぞろごと云ひたりとて、ののしりたるものども、「さなん有りける」とてあさみあへり。

（『新花摘』による）

（注１）あつぶるひ…熱震い。一定時間に寒気がして、発熱する病気。
（注２）四更…午前二時頃。
（注３）厠…便所。
（注４）庫裡…住職などの居間。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　二重傍線部ａ～ｅの「けれ」の中で、文法的説明の異なるものをア～オから一つ選べ。

ア　ａ　ややひまありければ　　イ　ｂ　一歩さし入れければ
ウ　ｃ　おどろおどろしければ　　エ　ｄ　身のけだちければ
オ　ｅ　かくと語りければ

問二　文中の空白部 Ⅰ ・ Ⅱ ・ Ⅲ に入るものとして最も適切なものをア～オから一つずつ選べ。

ア　いよよ　　イ　なほざりに　　ウ　何やらん
エ　からうじて　　オ　ひしと

Ⅰ＝　　Ⅱ＝　　Ⅲ＝

問三　波線部ｘ・ｙ・ｚの「ひま」の意味について説明したものとして最も適切なものをア～オから一つ選べ。

ア　ｘ・ｙ・ｚそれぞれ意味が異なっている。
イ　ｘとｙの意味は同じだが、ｚの意味だけ異なっている。
ウ　ｘとｚの意味は同じだが、ｙの意味だけ異なっている。
エ　ｙとｚの意味は同じだが、ｘの意味だけ異なっている。
オ　ｘ・ｙ・ｚともに同じ意味である。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　傍線部（１）「いぬゐ」は方角を表す言葉であるが、次のＡ・Ｂについて答えよ。

Ａ「いぬゐ」を漢字で書くと最も適切なものはどれか。ア～オから一つ選べ。

ア　丑寅　イ　未申　ウ　甲子　エ　戌亥　オ　辰巳

Ｂ「いぬゐ」が表す方角はどれか、ア～オから一つ選べ。

ア　北　イ　北西　ウ　南東　エ　南西　オ　南

問五　傍線部（２）「いたく寝ごちたるをうちおどろかして」の意味として最も適切なものをア～オから一つ選べ。

ア　すこやかに寝ているのをびっくりさせて
イ　すっかり眠ってしまっているのを起こして
ウ　ひそかに寝言を言っているのを目覚めさせて
エ　ひどく寝過ごしているのを注意して
オ　ぐっすり寝ているのでそのままにして

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　傍線部（３）「もとよりあやしきものの影だに見えず」の意味として最も適切なものをア～オから一つ選べ。

ア　以前から不思議な者の姿だけは見えない
イ　始めから粗末な物の形すら見えない
ウ　もちろん不審な者の姿さえ見えない
エ　最初からおかしなことに何も見えない
オ　もともと灯火のぼんやりした明かりしか見えない

問七　傍線部（４）「まさなくそぞろごといふなめり」の意味として最も適切なものをア～オから一つ選べ。

ア　他愛もない嘘をついているに違いない
イ　わけのわからない理屈をこねているのだろう
ウ　悪気はないのに知らずに嘘をつくらしい
エ　正気でもないでたらめを言っているようだ
オ　思いがけずつまらないことを言うはずだ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　傍線部（５）「おもなくて我も臥戸に入りぬ」とは、誰のどのような気持ちを表しているか。その説明として最も適切なものをア～オから一つ選べ。

ア　「なまじ言わなくてもよいことを言ってしまった」という、筆者の面目なく思う気持ち。
イ　「かえってとんでもないことを言ってしまった」という、筆者の申し訳なく思う気持ち。
ウ　「やっぱりもっと別のことを言えばよかった」という、筆者のうしろめたく思う気持ち。
エ　「中途半端に妙なことを言い出したものだ」という、家人たちが筆者を非難する気持ち。
オ　「初めての経験だからしかたのないことだ」という、家人たちが筆者を弁護する気持ち。

問九　傍線部（６）「あなあさまし」の意味として最も適切なものをア～オから一つ選べ。

ア　ああ、恐ろしい　　イ　おやまあ、気の毒な
ウ　おのれ、だまされないぞ　　エ　おい、大丈夫か
オ　なんと、あきれた

問十　傍線部（７）「梅の花のうち散りたるやう」で何を表現しているのか。その説明として最も適切なものをア～オから一つ選べ。

ア　晩秋の趣　　イ　筆者の優雅さ
ウ　狸の足跡　　エ　家人たちの無風流さ
オ　住職の博学さ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十一　『新花摘』は与謝蕪村の作品であるが、蕪村の俳句をア～オから一つ選べ。

ア　朝顔につるべとられてもらひ水
イ　柿食へば鐘がなるなり法隆寺
ウ　五月雨を集めてはやし最上川
エ　名月をとつてくれろと泣く子かな
オ　春の海ひねもすのたりのたりかな

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講　復習問題

① 「いとたふとく、あさましきこととも聞き侍りし。」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　みっともないこと　　イ　心のいやしいこと

ウ　嘆かわしいこと　　エ　びっくりすること

② 「戊亥」が表す方角として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　北東　　イ　南東　　ウ　北西　　エ　南西

③ 次の傍線部の中から、文法的説明の異なるものを一つ選べ。

ア　日悪しければ、船出ださず。

イ　「盗人入りぬ」と人告げければ、…

ウ　果てにければ、返りぬ。

エ　その時にこそ思ひ知りはべりけれ。

④ 「仏、あはれと思し召したりけるなめり」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　完了　　イ　強意　　ウ　禁止　　エ　断定

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講　模範解答

問一　ウ
問二　Ⅰ　オ　Ⅱ　ウ　Ⅲ　ア
問三　ウ
問四　A　エ　B　イ
問五　イ
問六　ウ
問七　エ
問八　ア
問九　オ
問十　ウ
問十一　オ

〔現代語訳〕

昔、丹後国の宮津の見性寺といったところに、三年ほど滞在した。秋のはじめから、熱震いのために苦しむことが五十日ほどで、奥の一間はたいそうとても広い座敷で、いつも障子をぴしっと閉めて、風が通るすき間さえない。その次の一間に病床を用意して、隔てのふすまを閉めきっていた。ある夜午前二時頃ぐらいであるが、病状が少し小康状態であったので、便所に行こうと思ってふらつきながら起きた。便所は奥の間の縁側を回って、北西の隅にある。灯火も消えてたいそう暗いので、隔てのふすまを押し開けて、まず右の足を一歩差し入れたところ、何であろうかむくむくと毛の生えているものを踏みつけた。恐ろしいので、すぐに足を引っ込めて様子をうかがっていたが、何の音もしない。不思議で恐ろしいけれど、胸をたたいて決心して、今度は左の足で、「ここだろう」と思ってぽんと蹴った。そうであるが、まったく触れるものはない。ますますわけがわからず、身

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

の毛がよだつほどであったので、ぶるぶる震えて住職などの居間のほうに立っていき、法師や下男たちがすっかり眠ってしまっているのを起こして、こうこうと話すと、皆起き出してくる。灯火をたくさん照らして奥の間に行って見ると、ふすまはいつもどおり閉まっていて、逃げることができそうなすき間はなく、もちろん不審な者の姿さえ見えない。皆が言うことには、「あなたは、病気に冒されて、正気でもないでたらめを言っているようだ」と、怒って腹を立てては、皆寝てしまった。

「なまじ言わなくてもよいことを言ってしまったよ」と、面目なく自分も寝床に入った。そのまま寝ようとする頃、胸の上に大きな石を載せたように思われて、ただひたすらうめいた。その声がもれ聞こえたのであろうか、住職の竹渓師が入っていらっしゃって、「なんと、あきれた、これは何事だ」と助け起こした。ようやく正気になって、こうと話したところ、「そのようなことがあるようだ。あの狸小僧の仕業である」と言って、妻戸を押し開けて見ると、夜が白々と明けて、はっきりと見てわかったが、縁側から簀子の下に続いて、梅の花びらが散ったように（狸の足）跡が付いている。そこでさっき「でたらめを言っている」と言って、大騒ぎした者たちは、「そのようであったのか」と言って驚きあきれていた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十一講　解答解説

〔解説〕

① 「あさまし」は重要単語で、「驚きあきれる」の意味。良い意味でも悪い意味でも使うので気をつけること。「びっくりする」という訳で正解は選べるが、設問文では直前が「たふとく」（＝すぐれている）と良い意味なので、ここでは「プラスの意味で驚く」と考えられる。ア～ウは、マイナスの意味で不適当とわかる。よって、正解はエ。

② 「戌亥」は「いぬい」（いぬゐ）と読み、「北西」を表す。よって、正解はウ。

③ 選択肢アは、直前が「悪し」で様子・状態のため、「悪しけれ」で一語の形容詞（已然形の活用語尾）。他の選択肢は上が連用形であることから、過去の助動詞「けり」の已然形。よって、正解はア。

④ 「なめり」の「な」は断定である。よって、正解はエ。ちなみに、「なめり」は「であるようだ」と訳す。

〔解答〕

①　エ　　②　ウ　　③　ア　　④　エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。